

岡倉天心 「岡倉天心書簡」 明治29（1896）年8月2

7日

拝誦仕候。雅邦

はいししょう

翁の鯉魚は

必ず大に見るへきものと

おおい

存候へ共、固より

そうらえども

もと

写生的のものにあらざるへし。且、

かつ

近頃同氏殊に繁

こと

忙に有之候。写生

これあり

的に候はば、川端玉章

氏宜敷かるへく、又、若

よろし

手有為の人にては

下村観山、寺崎広業

山田敬中等の鯉魚

面白かるへく存候次第

に依り、小生より依

頼候ても宜敷候間、

よろしく

そのせつ  
其節は大き物質

おもうしこしくだされたく  
等御申越被下度候

右御答迄

岡倉覚三

八月二十七日

阪谷老台

侍史